

～想像力と行動力で老朽化施設を活かす～

平成27年地域政策研究センター(地域提案型・後期) 採択課題

課題名: 『宮古市野外活動センター』アイススケート場廃止後の利活用について

研究代表者: 総合政策学部 教授 倉原宗孝

課題提案者: 宮古市教育委員会生涯学習課 高山弘二

研究メンバー: 刈屋裕之(宮古市野外活動センター運営協議会) 皆川章(田代自治協議会)

技術キーワード: 老朽施設、公共施設、野外施設

▼研究の概要(背景・目標)

今日、老朽化した公共施設に対する対応が全国的に課題となっている。宮古市野外活動センター・アイススケート場の廃止後も同様な状況にある。費用対効果などからそのままの維持は難しい面もある。しかしこうした施設は市民にとって非常に重要であり、その活用利益は地域内外に渡るものである。また、運営管理にあっていた団体にとって、施設に対する愛着と、同時にこうした施設運営管理を通じた地域貢献・活性化への意義は大きい。こうした思いや経験を、仮に施設閉鎖になっても、この場所や新たな施設の運営のなかに反映させることが様々な意味において重要・有効と考えられる。その為の利用・運営方法を検討していくのが本研究の目的である。

▼研究の内容(方法・経過)

各種情報収集、全国事例の視察、現地提案などを行った。当該案件と同様な対象は全国に存在するが、活用方法と共に「運営体制」の効果が推測され、主にネット情報をもとに幾つかのユニークな運営体制・主体を探った。また、事例についても特徴的なものを扱っている。さらに若者世代からの発想なども取り入れた。

▼現地視察・提案・検討

大学生と共に現地視察、地元関係者との懇談などを踏まえ活用提案を行った。若者目線も光る。

結果

●狩猟の里にしよう。

ハンター不足の原因

- ・狩猟という行為が馴染みにくく、興味が低い
- ・狩猟免許を取得しても実践する人が少ない
- ・親友への意欲の高さを感じていないのではないか

→ 右手の活用提案の案をサポートする場が必要

とある秋の一日

- ・午前
- ・狩猟はバーブ射撃の収穫、すてっしス
- ・秋の収穫祭は秋まつり山、湖の準備
- ・午後
- ・狩猟は秋の収穫
- ・各々の収穫を準備し、収穫をみる
- ・帰郷
- ・お祭り盛り上げ祭り!

獣害へのハンター不足とレジャーも兼ねて「狩猟の里」提案。ドラム缶風呂やジビエ等「こんな一日」も。

事業の提案

各事業のメリット

動物を見るカフェ

園芸

- ・精神的安らぎを得られる
- ・食育のメリットがある (地域産物、健康食品の活用)
- ・自然の魅力を伝える
- ・自然の魅力を伝える
- ・自然の魅力を伝える

動物を見るカフェ

- ・リラクゼーション
- ・地元の自然の魅力の再認識
- ・地域の人の交流の場

園芸不足の解消・協力の下での子供・社会科・収穫の楽しみ・生きがい・生活能力の

「天体観測」や「動物を見るカフェ」など自然、地理的条件を活かした提案。事業の利点、欠点も検討。

『日曜朝市』

- ▶ 毎週日曜日の午前中に実施
- ▶ 一人が多く集まると考えられる曜日・時間
- ▶ 体験型で地元産物や、市民農園で収穫された農産物を販売
- ▶ 休憩場内で農産物や豆類・ナッツなどの展示の開催
- ▶ 一層広がるため、雨天時にも対応できる

『ふるさと収穫祭』

- 会場: 宮古市市民センター (会場は任意)
- 開催: 毎年11月
- 内容: 地元産物や農産物を活用し、自分、他、地域の活性化を図る
- イベントとして公開的に実施し、地元産物や農産物を活用

イベント

- ▶ 地元産物や農産物を活用し、自分、他、地域の活性化を図る
- ▶ イベントとして公開的に実施し、地元産物や農産物を活用

「日曜朝市、ふるさと収穫祭」といった現在も地元で行われている活動を敷衍拡大していく。地元コミュニティに着目。

▼おわりに

各事例や現地調査からの提案だが、一方で当該地域での実際の事業となると多くの課題もある。本研究において地元関係者の方々をはじめ多くのお世話になった。深く感謝すると共に引き続き地域状況を見つめ応援したい。

▼運営主体・運営体制もポイント

「PPP (Public-Private-Partnership)」や「PFI (Private-Finance-Initiative)」といった官民協働の運営方法も近年は重視。金沢21世紀美術館と旭山動物園と武雄市図書館のコラボなどもユニークで美術館+動物園+図書館という異なる機能・施設の連動・融合も興味深い。「コンセルジュ」サービスなど取り組みも。「くまもとの森都心プラザ図書館」など問題施設を「図書館」とした活用も。<図書館と森の動物、カフェを連動する>など。図書館の利用イメージの他に、<資料館>など文化施設として既存施設を活用する方法も見られる。「ふくろうの森」が運営する鳴門市立図書館、森、文化などの分野・要素にプラスαのイメージ・内容を付加するなど検討出来ないか。

▼イメージを喚起させる(全国事例)



「赤崎水曜日郵便局」の取り組み(熊本県津奈木町)廃校小学校から海を隔てて見える島にポスト。水曜日になると明かりが灯る。全国の誰かから手紙で交信。



「ハイジ牧場(北海道夕張郡長沼町)」低コスト、身近な素材活用など、自然環境・立地性からも参考になる。